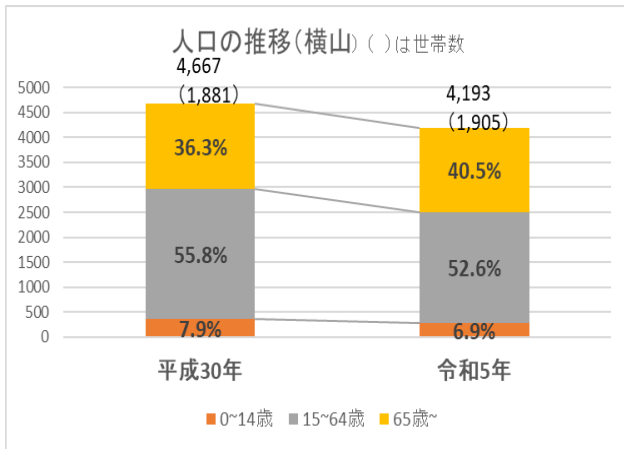


横山校区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	12
	校区社協役員数	33
	校区社協ボランティア数	84
	民生委員・児童委員数	12
	老人クラブ会員数	1419
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	12
	高齢者見守り協力事業所数	10
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
	自主防災組織の有無	有
対象者数	ふれあい訪問利用者数	4
	誕生月訪問利用者数	83
	避難行動要支援者登録数	63

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1. 買い物が便利なまち	
2. 困りごとの相談窓口が分かりやすいまち	
3. 住民同士のまちなまりや助け合いが多いまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1. 放課後に保護者が帰宅するまで安全に子どもが過ごせる居場所	1. 自由に使える友だちとのたまり場
2. 高齢者の経験や強みを活かせる居場所	2. 思いっきり遊べる広い公園や広場
3. 子育てを応援してくれる居場所	3. 雨でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1. 子どもの登下校の見守り	1. 年下の子どもの遊び相手をしたり、面倒をみる
1. 地域や世代を問わない誰もが食を通じて集まれるみんな食堂	2. 赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
2. 高齢者の地域での見守り訪問	3. 年下の子どもの勉強をみたり、話し相手になる
2. 高齢者の交流の場づくり	

地域での話し合い(ワークショップ)での意見

- ❖ コロナ前のように校区が一丸となって行うイベントを再開したい。まずは、若い人たちの声を聴き活動を進めたい。
- ❖ 校区全体の防災意識が高まるように、災害時の具体的な避難手段や支援のマニュアル化について考えていきたい。
- ❖ 若い人が横山に住みたくなるよう魅力的なまちづくりについて考えていきたい。

老若男女がつとえる田舎まち横山

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 ひとりひとりが地域づくりに参加するまちづくり

【具体的な取り組み】

- 男性も参加しやすいサロン（交流の場）活動を行い、男性ボランティアを増やす
- 学校やP T Aとの連携も考え、様々な世代の人のアイデアを生かしたイベントを開催する
- 子どもの登下校の時間帯に併せた健康づくりウォーキングを推奨する

重点取り組み②

【目 標】 災害に強いまちづくり

【具体的な取り組み】

- 隣近所のお付き合いを大切にし、顔の見える関係を継続する
- 防災マニュアルを家庭でも地域でも身近になる取組みを進める
- 地域に合った防災訓練や研修等を行い、減災の取組みを進める

重点取り組み③

【目 的】 暮らしやすいまちづくり

【具体的な取り組み】

- 話し合いの場を継続させる
- なんでも相談会を定期的を開催し、住民自身が助けを求める（受援力）をつけよう
- 横山のあたらしい支え合いの形を考えていこう



横山校区社会福祉協議会

横山校区の活動テーマ

老若男女がつどえる田舎まち横山

重点取り組み①

ひとりひとりが地域づくりに参加するまちづくり

普段行っているウォーキングを見守り活動につなげるため「よこやまみまもりたい」と書かれた反射板付きのたすきを校区で作成し、各町に10本ずつ配布しました！
また、毎年開催している「槇尾っ子まつり」を通して多世代交流を継続しています。



重点取り組み②

災害に強いまちづくり

各町会での災害の備えを聞き取るため「横山防災アンケート」を校区内すべての町に実施しました。LINEを使った連絡体制や、班単位での安否確認をしているなど、各町で共有できることも多く、参考になるアンケートでした。

重点取り組み③

暮らしやすいまちづくり

横山校区で実施している「なんでも相談会」では、市社協・貴生会地域包括支援センター・ひかりの園いきいきネット相談支援センターが校区内の各町に出向き、各種相談窓口や福祉サービスなどを紹介しています。令和6年度は4町で「なんでも相談会」を開催しました。



令和7年度は…

協議の場実践活動補助金を活用し、防災啓発冊子「イツモノソナエ」を全戸配布しました。この冊子では「自助」「共助」の力を高めていただくために、家庭で出来るさまざまな備えを紹介したり、横山の強みや平時からの顔の見える関係の大切さなどについて記載しております。

また、なんでも相談会も引き続きさまざまな町会で開催しました。今後とも継続していく予定になっております。